

「防災の日・防災週間」

9月1日は『防災の日』、1923年に関東大震災が発生した日でもあり、暦の上でおおむね『二百十日』です。台風シーズンを迎える時期で、1959年9月26日の「伊勢湾台風」による戦後最大の被害が契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、『防災の日』が創設されました。また、1982年から、『防災の日』を含む一週間を『防災週間』と定めたのです。

台風と言えば、忘れてはならない台風による海難事故があります。イギリスの豪華客船タイタニック号の沈没に次いで、2番目に大きな犠牲を出した海難事故が日本で起きています。1954年北海道函館で発生した青函連絡船を含む5隻の沈没事故です。台風による猛烈なシケで乗員・乗客1447人が死亡しました。この時の一番大きな連絡船から名前をとって「洞爺丸台風」、この事故を「洞爺丸事故」と呼んでいます。

この5隻の船は、台風をやり過ごそうとして函館港の港内、港外で錨を下ろし、大荒れの海で、風と波に流されないように備えました。しかも乗員・乗客を満載して台風を待ったのです。台風がそのまま駆け抜けていけば全く問題はなかったのですが、この台風は迷走し、その動きはゆっくりで、陸上も海上も猛烈な風雨に長時間さらされました。風力は船の推力を圧倒し、ボイラー室に浸水して推力を失い、コントロールできず錨をひきずり迷走しました。そして、風波を受けて転覆をしたり、座礁して船体が破断し沈没した船もありました。

この悲劇を現代の日本人への教訓とすることは、できないでしょうか。船長は、その時台風が遠ざかるという誤った判断から乗客の下船を禁じ、出港を命じた。その結果、やってくる台風を乗客と共に沖合で待つはめになり、乗客を守るべき立場にある人物が「何よりも大切な乗客の命」を危険にさらし、多くの死をもたらす道を選んでしまったのです。

今日の我々日本人の多くは、洞爺丸の船長と同じ誤りを犯していないでしょうか。「15年前にあの兵庫県南部地震が来たから、関西に地震はもう来ない!」と、自分勝手な判断をしている人が多いと言うことです。全ての事が「今のままであれば良い」と、願っているだけならまだしも、土壇場になるまで「何とかなる」と危険を気にかけない人、「誰かが何とかしてくれるだろう」と思っている人が多いようでは困ります。自分にとって、最悪の事態にコストを掛けて備えるくらいでなければならぬ。洞爺丸事故では、船長としては乗客を下船させるくらいでないと困るということです。

このようなことから防災とは、待つものではなく、『**一步前に踏み出す勇気**』が必要ということなのです。



身近なことで防災活動をするとは、インフルエンザの対策とよく似ています。「インフルエンザと免疫抗体」の関係と同じで、「災害と災害に対する抗体」の関係と同じように考えられます。

インフルエンザワクチンは免疫抗体を作ります。ワクチンを接種することで身体の中に免疫抗体ができます。その結果、インフルエンザにかかりにくくなり、たとえかかったとしても軽い症状で済みます。しかし、予防接種しているワクチンの型が違えばかかる可能性も高まります。インフルエンザは毎年、新聞やニュースなどでも話題になる病気で、例外なく流行するものです。自分や家族がかかったときのことを考え、どんな型があり、どんな症状なのか。また、流行時期を把握しておけば事前に対策をとることもできるので、基礎知識は頭に入れておくべきです。かかれば合併症も怖い病気で、命を落とす人もいるので注意が必要です。とにかく、かからないように予防する。ワクチン接種も大切なように、日々の手洗いやうがいも効果があるのです。



以上のようなことは、災害対策も同じです。災害対策には「**災害ワクチン**」が必要になります。その災害ワクチンこそが「防災」なのです。災害ワクチンを接種するとは、言い換えれば防災活動をするので、災害に立ち向う災害抗体ができるのです。それが「備える」ということになります。

予防する災害の型が違っていけば、効力は少なくなりますが、やらないよりはやっておけば、少しでも被害は軽減されるのです。それを自分だけではなく自分の周囲の人にも接種すれば、効果は確実に高まっていきます。そして毎年の防災週間で、再接種することにより、色々な型に対処できる災害抗体が備わるのです。

また、日々の手洗いやうがいと同じく「生活防災」を日常の生活の中に組み込めば、災害に対する抗体は更に強力なものになります。しかし、ここで言えることは「インフルエンザワクチン」も「災害ワクチン」という防災活動も、あなた自身に接種をする意志がなければ、何も始まらないということです。

「**災害ワクチン**」は一度限りではなく、生涯にわたって繰り返し接種する必要があります。その経験が「より良い災害ワクチン」をつくり、積極的に接種することで、災害抗体を身につけていけば、突然の災害に出会ったとしても、あなた自身はパニックに陥らず状況に応じた対応が可能になります。

それは、**あなたの大切な人の命を危険にさらすことは無くなる**ということです。

年に一度は『災害ワクチン』の接種をしましょう!

参考：広瀬弘忠「どんな災害も免れる処方箋」